

自立活動だより



紀北支援学校自立活動部

令和4年9月発行

愛徳分教室の取組を紹介します。

愛徳分教室は、愛徳医療福祉センター内にあります。子供たちは当施設内で生活しており、睡眠や食事・体調の管理等、様々な面からの支援を受けながら過ごしています。分教室では、関係する他職種の方々と日々連携を取りながら、児童・生徒の様子を把握し、将来の自立に向けた取り組みを行っています。

【関係職員との連携】

子供たちは毎日9:05～9:45まで、個々のプログラムに応じて、OT（作業療法士）ST（言語聴覚士）PT（理学療法士）によるリハビリを行った後、担当者と登校し、各担任と引き継ぎを行っています。短時間でも情報交換することを積み重ねていくことで、子供との関わり方や授業改善に活かすヒントとなっています。また、



年に2回一人一人のカンファレンスも実施しており、医療・教育・生活面等、様々な視点からの意見交換をしています。

引き継ぎ内容（例）

「今日のリハビリでの気づき」「Aさんのテーブルの高さ」
「Bくんの表現方法のヒント」「Cさんの排痰について」

【分教室職員間の連携】

今年度は、小学部に1年生2名が入学し、小学部児童4名、中学部生徒3名、高等部訪問学級生徒1名の計8名でスタートしました。クラス活動だけでなく、音楽や体育、特別活動等、教科や内容によっては全員もしくは



縦割りの授業も行っています。そのため、職員全員で子供の実態やねらいを把握し、共通理解に努めています。年齢差が大きいので、同じ課題でも、より個々に応じたねらいを達成できるよう配慮しています。

課題別学習での共通理解（例）

「教材の内容や提示方法」「年齢に応じた言葉かけ」
「教具の操作方法」「車いすでの移動順番」他

【自立活動実践例】

小学部1年生 男子 Dくん

自立活動指導目標

- ・成功体験を重ねることで自信を持ち、意欲的に課題にのぞむようになる。
- ・一つの課題に集中して取り組み、最後までやりきることができる。

今回は、【2心理的な安定-①情緒の安定に関すること】 【6コミュニケーション-①コミュニケーションの基礎的能力に関すること】を中心に取り組んでいる自立活動について報告します。

【Dくんの実態】

Dくんは、今年度新1年生として入学してきました。工作活動や自然との触れあいが大好きで、色々な素材を見つけて創造性豊かな作品を作ったり、中庭に出て虫や花を観察したりするなど、元気に身体を動かしながら日々の生活を楽しんでいます。音声表現も豊かで、経験したことや楽しかったことを伝えることができています。



個性豊かな作品（宇宙人）



小麦粉粘土
全て一人で作り上げる

ただ1年生ということもあり、まだまだ経験不足の面が多く、得意なことや自信があることにはとても意欲的に取り組み、自分からどんどん進めていくことが出来ます。しかし、初めての課題では、見通しがもちにくいことや自信のなさが先立ち、取りかかりに時間を要したり、途中であきらめたりする場面が見られます。また、最初に頑張りすぎて、後半集中力が途切れてしまうときもあり、せっかくの長所を活かしきれないときがあります。そこで自立活動では、一つの課題を繰り返し行い、「わかった、出来た」という経験を重ねることで自信を持ち、新たな課題にのぞんでいけるよう、情緒の安定を重点的に取り組むようにしました。

【取組内容（目標の達成に向けて）】

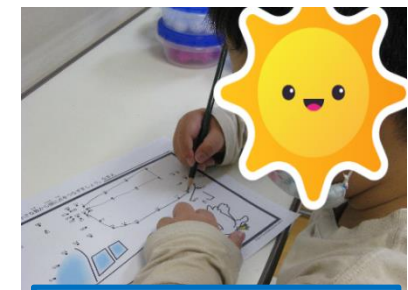
- *間違い探し（集中して課題にのぞみ、最後まで探す）
- *点つなぎ（数字をよく見ながらつなぐ）
- *平仮名のなぞり書き、視写（よく見て書くとともに、読めることを目指す）
- *本児の好きな課題（提示された課題を頑張った後は、好きな課題を楽しむようにする）

【現段階での評価】

「間違い探し」3つの間違いを探すことから始めました。絵の左右の違いに戸惑うことがありますが、短時間で探すことが出来、「簡単だなあ。」と言い出したので、6月から5つの間違い探しに変更しました。教師も見つけるのに苦労する中、最後まで探しきって得意そうにしています。

「点つなぎ」最初は「1～30」程度の点つなぎを行っていましたが、これも「もっと難しいのがやりたい。」と「1～70」程度に挑戦しています。30を超えてくると、次の点を間違えることもありますが、完成する喜びを味わえるよう、多少の間違いは認めながら進めるようにしています。

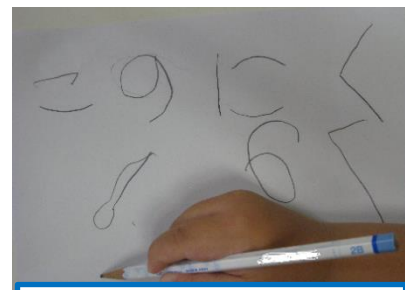
「平仮名のなぞり書き、視写」コミュニケーション力の向上を目指し、自立活動の時間だけでなく、国語の時間にも取り組んでいます。自分の名前から一文字ずつ始めていき、繰り返し取り組むうちに意欲が高まるようになり、宿題を求めたり



点つなぎ（完成を喜ぶ）

（1日1枚）、見本無しで枠内に名前を書くほどになりました。おかげで、他教科で出てきた文字も書こうとしたり、文字を読もうと教師に尋ねる様子が見られるようになりました。

現在、上記の課題を1つか2つやり終えた後は、本児の好きな課題を行い、楽しい気持ちで学習を終えるように留意しています。いずれの課題も完成（終わり）がわかるものです。自分の力でやりきることによって自信につながり、「わかった、出来た、もっとやりたい」と実感できるように、今後も取り組んでいきたいと思っています。



文字の読み方や書き方を
尋ねて書き始めた